

表 I-1 ご回答いただいた学校の種別 (図1)

高等学校	165	82.1%
特別支援学校等	36	17.9%
計	201	100.0%

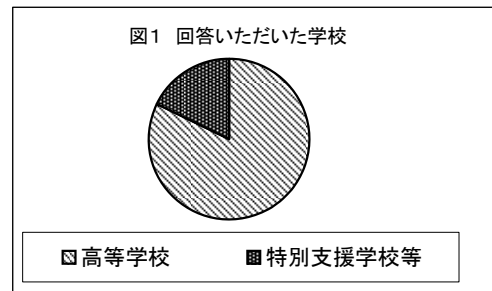


表 I-2. 在籍者総数

	1年	2年	3年	計
高校	40946	40595	39806	121347
特別支援学校等	445	433	377	1255
計	41391	41028	40183	122602

表 I-3. JASSOによる修学支援はご存じでしたか? (図2)

	知っている	知らなかった	未回答	計
高等学校	51	113	1	165
特別支援学校等	13	22	1	36

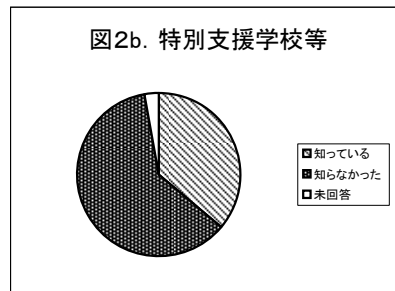
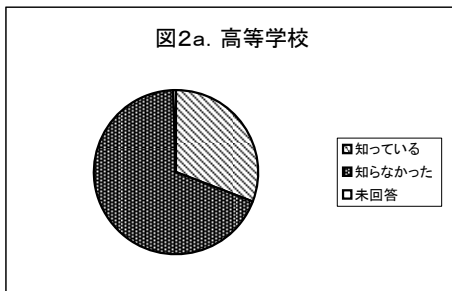


表 I-4. 拠点校についてはご存じでしたか?

	知っている	知らなかった	未回答	計
高等学校	18	146	1	165
特別支援学校等	7	27	2	36

表 I-5. 障害がある方が在籍していらっしゃいますか/していましたか? (図4)

	高校		特別支援学校等		計
在籍している	93	56.4%	34	94.4%	127
在籍していたことがあるが、現在はいい	26	15.8%	0	0.0%	26
在籍していない	43	26.1%	0	0.0%	43
未回答	3	1.8%	2	5.6%	5
計	165	100.0%	36	100.0%	201

◆自由回答 (一部略)

本校は、知的障がいのある児童・生徒の特別支援学校になります。

本校は知的障害者の特別特別支援学校です。

本校には現在、在籍数286名のうち18名が障害者手帳を有しています。そのうち知的障害は16、精神障害が2であり、今年度は身体障害の生徒はいません。病弱・虚弱27名。発達障害の生徒は多数おり、おそらく2~3割以上。

本校は知的障害をもつ生徒が多くいる特別特別支援学校であるため上記のような分類になる。

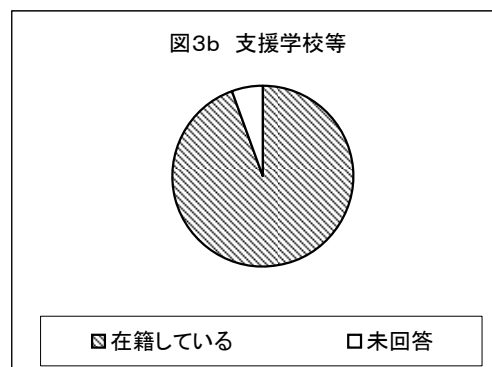
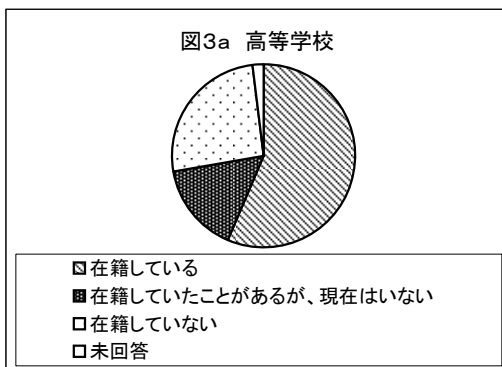


表 I-6. 在籍されている方の障害の種類 (図5)

	高等学校				特別支援学校等				総計
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	
盲	0	2	2	4	11	8	10	29	33
弱視	3	10	8	21	11	12	9	32	53
聾	4	1	3	8	24	22	23	69	77
難聴	27	23	22	72	35	34	32	101	173
言語	0	1	0	1	0	0	0	0	1
上肢	4	4	5	13	27	28	14	69	82
下肢	13	11	13	37	45	41	27	113	150
他運動機能障害	4	9	5	18	20	21	16	57	75
病弱	19	15	15	49	5	12	9	26	75
LD	3	1	3	7	1	2	4	7	14
ADHD	4	7	7	18	1	2	1	4	22
他の発達障害	32	32	15	79	13	9	13	35	114
その他	18	17	22	57	111	117	157	385	442
重複	4	13	6	23	102	94	101	297	320
計 (重複を除く)	131	133	120	384	304	308	315	927	1311

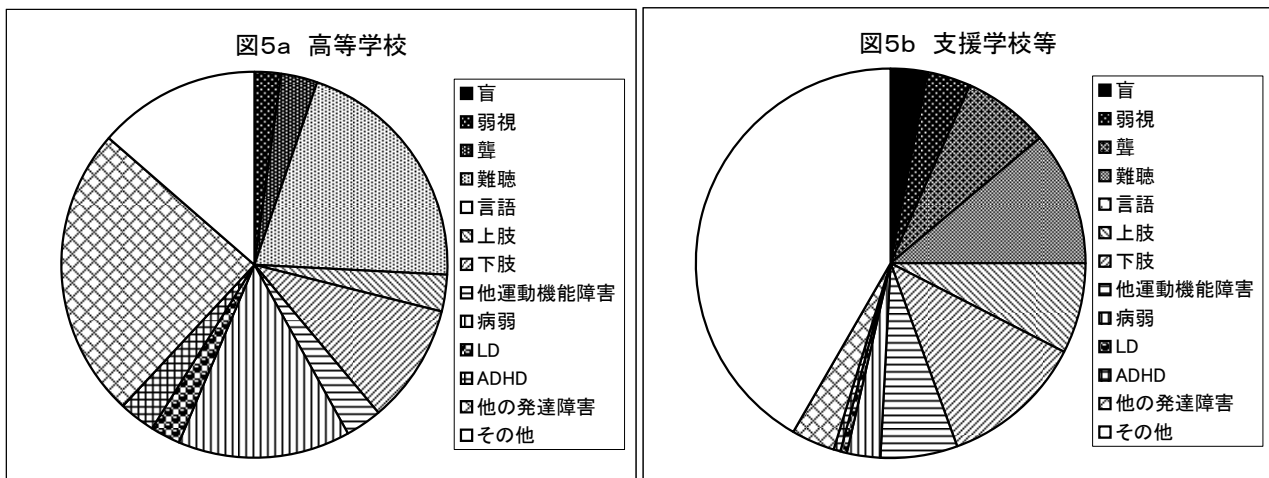


表 I-7. 過去5年間の障害がある生徒数 (高等学校)

種類	在籍者数
盲	0
弱視	2
聾	1
難聴	6
言語	0
上肢	3
下肢	13
他機能障害	2
病弱	0
LD	0
ADHD	2
他の発達障害	0
その他	4
重複	0

表 I-8. 現在も過去も在籍されていない学校にお尋ねします。将来障害がある学生を受け入れますか？

対応が難しいため、進学については辞退してもらうことになるかもしれない	0
対応が難しいので、個々のケースにあわせて、希望者と協議することになるだろう	22
受け入れに問題はない	3
現時点では、どうするかわからない	13
その他のコメント	4
未回答	1
◆その他いただいたコメント	
本校は今年度末をもって閉校です。	
受け入れることを前提に対応していく。問題はある	
学力検査については、本校校長が中学校長及び県教育委員会と協議の上、必要な場合には特別な措置をとる。	

表 I-9. 現在も過去も在籍されていない学校にお尋ねします。今後、障害がある生徒を受け入れて、その方が大学・短大等への進学を希望した場合、どのような対応をとることになると思いますか？

現時点では、受け入れるかどうかはわからない	5
受験雑誌・Web等で、障害がある学生を受け入れる大学を探す	27
協定関係をもつ大学に相談する	5
その他（自由回答）	4
個別に大学等に相談する	
本人が希望する大学に相談する。	
現時点では未定である。しかし、何らかの方法を探すことになる。 該当生徒の状況に応じて判断する。	

表 I-10. 貴校での支援についてお尋ねします（重複あり）。

a. 登下校	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	4	1	5	50	1	1
特別支援学校等*	17		1	13	5	1
計	21	1	6	63	6	2
b. ノートテイク	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	7	1	6			3
特別支援学校等	5		1			1
計	12	1	7	0	0	4
C. 字幕	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校						1
特別支援学校等	5					4
計	5	0	0	0	0	5
D. 拡大	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	18					1
特別支援学校等	11					1
計	29	0	0	0	0	2
E. 点訳	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	2				1	3
特別支援学校等	4				1	1
計	6	0	0	0	2	4
F. リーディング	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	6		1			1
特別支援学校等	8				1	
計	14	0	1	0	1	1
G. 手話通訳	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	1		1		1	3
特別支援学校等	5				1	4
計	6	0	1	0	2	7
H. 姿勢や机配置等	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	63	1	5		1	6
特別支援学校等	21					
計	84	1	5	0	1	6
I. ガイドヘルプ	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	10	1	11	2	2	1
特別支援学校等	9		1	2		
計	19	1	12	4	2	1
J. エレベータ操作	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	13		16	1	1	3
特別支援学校等	19		1	1		
計	32	0	17	2	1	3
K. ドアの開閉	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	5		20	1	1	2
特別支援学校等	17		2	1		1
計	22	0	22	2	1	3
L. 食事準備	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	8		9	2	1	
特別支援学校等	21					1
計	29	0	9	2	1	1

* : 含スクールバス

M. 食事介助	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	7		6		2	
特別支援学校等	25					
計	32	0	6	0	2	0
N. 小トイレ介助	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	15	1	3	4	1	1
特別支援学校等	25					
計	40	1	3	4	1	1
O. 大トイレ介助	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	14	1	3	4	2	1
特別支援学校等	26					
計	40	1	3	4	2	1
P. 障害者用トイレの設備	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	43	1			1	1
特別支援学校等	27					
計	70	1	0	0	1	1
Q. 特殊な便器・福祉用具	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	18		1	2		1
特別支援学校等	18					
計	36	0	1	2	0	1
R. 対人相談	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	33	1	1	3	4	4
特別支援学校等	20				2	2
計	53	1	1	3	6	6
S. カウンセリング	学校	担任・教師	生徒	保護者	学外団体	その他
高等学校	43			5	4	5
特別支援学校等	17				3	
計	60	0	0	5	7	5

表 I-11 2008年卒業の方で、大学・短大に進学された方の数 (図6)

	高校	特別支援学校等	計
盲	1	0	1
弱視	3	2	5
聾	1	4	5
難聴	19	2	21
言語	0	0	0
上肢	1	0	1
下肢	2	2	4
他運動機能障害	3	0	3
病弱	2	2	4
LD	1	0	1
ADHD	1	0	1
他の発達障害	7	0	7
その他	1	0	1
重複	1	0	1
計	43	12	55

表 I-12 過去5年間で大学・短大に進学された方の数

	高校	特別支援学校等	計
盲	1	12	13
弱視	6	2	8
聾	3	23	26
難聴	20	23	43
言語	0	0	0
上肢	2	1	3
下肢	23	1	24
他運動機能障害	6	0	6
病弱	13	9	22
LD	2	0	2
ADHD	3	0	3
他の発達障害	8	0	8
その他	1	1	2
重複	2	0	2
計	90	72	162

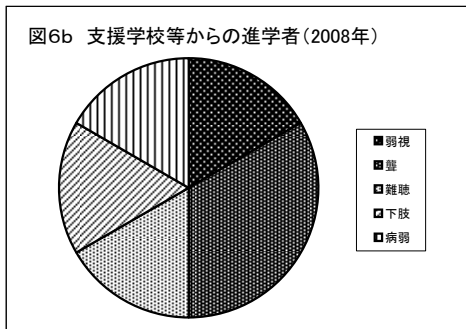
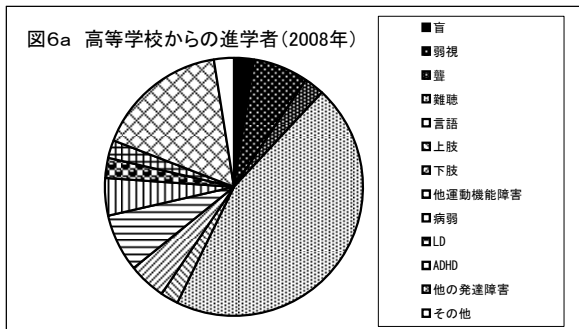


表 I-13. 大学・短大への進学に際して、受験指導等でお困りになったことについて（自由回答）

◆高等学校	
#1	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先の大学との連携は望ましいが、大学の事情、保護者との関わりなど、慎重にならざるを得ない場合が多くある。 ・発達障害の場合、診断も手帳も無い場合が多々ある。そのようなとき、合格後、進路先へのサポートをお願いするにしても保護者の了承を得にくいことがある。 ・進路先との連携を望んでいるが、進路先の対応する体制がまだまだ不十分であり、不十分な中で個人情報だけをいれてしまうことには不安がある。
#2	大学においてどのような支援がなされているのかについて、講義における支援はわりあいわかりやすいが、就職における支援体制がわかりにくいので、就職先も含めて、生徒が自分で調べられるようにしてほしい。
#3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が受験を希望する大学の受け入れ状況が分かりにくい。 ・受験について（受け入れについて）の問合せに対し、返答に時間がかかる。
#4	・大学側の受入体制や支援の状況について情報を集めにくかった。特に、普通科の本校に通学する生徒と保護者は、障害者支援のネットワークに関わりを持たずに来られた方々で、支援の情報から疎外されている面があります。また、学校体制としても十分に情報や相談窓口をつかんでいるとは言い難く、生徒本人に結果的にはしわ寄せがいつている面があると思います。
#5	<ul style="list-style-type: none"> ・受験上の配慮や支援体制等の情報を得る事が難しい。（個々の状況によって対応が異なるという事は理解しているが・・・） ・障がいのある生徒は、出願・志望を早期に決定しておかないと受験できない事もある。 ・視覚障がい生徒に、過去問等の電子データがほしいが、入手が困難である。 ・担当者が、暗に「受け入れたくない」という態度を示されると、障がいのある生徒のフォローが必要となってくる。「出来る事・出来ない事」を正確に伝えて頂く事は大切であるので、人の啓発を是非ともお願いしたい。
#6	通学が可能な大学の中には、障害のある生徒を受け入れてくれる大学が見つからず、受験をあきらめた。
#7	障害のために、遠くの大学へ進学することが困難であったので、受験できる大学が限られていた。
#8	過去問などの教材が膨大な量なので、点訳をするのに、手間と時間がとられた。
#9	外見上わかりにくいし、とくに配慮してもらわなくてよいと本人が配慮を希望しないときの指導として、調査書に記入してよいものかどうか？
#10	かつて聴覚障害で言語の正常な発声ができない生徒が存在した時には受験指導に限らず、平素の授業などにおいてもその生徒にたえず顔を向けて唇が読み取り易いように気をつけながら、しかも他の生徒たちへの指導にも支障をきたすことの無いように努力した。また、当生徒は理系の進学をめざしていたため、大学のスタッフと連絡をとって、生徒が入学した場合の大学生活について細かく情報を得て本人に情報提供しながら進路指導した。
#11	難聴学生をA大学（国立）に進学させた際には、先方に経験があり問題なく受け入れられた。
#12	大学から保護者の付添（学内に所在すること）を条件とされ、現在話し合いの最中である。ちなみに本校では登下校の親のサポートはあるが、授業等（学校生活）については、移動の場合を除きサポートは必要ない。大学進学後は電動車椅子を使用する予定
#13	発達障害の生徒が進学のための面接試験をうけるにあたって、想定外の質問への不安が大きかった。スクールカウンセラー、発達障害支援員、数名の教師がスケジュールを組んで計画的にかかわることにより、力をつけ、安心して受験に挑むことができた。
#14	ADHD対象の生徒で付属大学への進学で、学部的に可能かどうかの相談を大学と行い、進路相談を行った。
#15	2008年3月卒業で専門学校進学者1名は、美術担当教員が保護者と協力して、オープンキャンパスや出願等、きめ細かく指導し、入学後も話をしに行ったのでかなり労力が必要だった。過去大学に進学した1名は、指定校推薦の基準に達しなかったが公募で合格したが、大学を選ぶのに苦労した。
#16	<ul style="list-style-type: none"> ・重度の心疾患で入退院を繰り返しており、受験勉強も思うようにできない状態であった生徒。高望みをしなければ、受かりそうな大学もあるのだが、将来（疾患のため）就職先が限られてくることを懸念し、有名大学でなければ、という強迫観念に苦しむ生徒に対し、どのように支援すればよいか迷った。 ・LDの場合、特定の科目が弱いということがあり、なかなか国公立の総合大学へは受かりにくかった。また面接等でも心配だったが、何とか本人はくぐりぬけた。
#17	入試前の個別の相談会に参加し、相手の大学の担当者と障害のことや、大学の対応等を話し合ったが、相手大学の担当者が本人や家族に対し、配慮の足りない発言が多くあり、本人はその大学の志望をやめ、他大学を受験した。
#18	・指定校推薦、A0入試における面接指導、指定校推薦で緊張？したのか、何も話せなくて不合格にされたことを聞いて、何とか話せるように何度も繰り返し練習させました。
#19	本校は不登校生徒を積極的に受け入れているため、ADHDやアスペルガー自閉症の生徒が多い（診断されていない潜在的な者も含める）。1科目に特に秀でていたり、物事に執着を示す者が多いが、コミュニケーションは苦手であるため、面接や小論文などの指導において採用側の意図を理解させることが難しい。また、学力に科目間格差があるため、一般入試の可能性が低い。

#20	・他の生徒と一緒に筆記試験を受けるのは難しかった。
#21	知的障がいのある卒業生2名大学進学。知的な障害のある生徒の大学、短大への進学について、大学側の制度が整っていないために、なかなか話が進まないことが多かった。重度の脳性マヒの場面、見学の段階で否定的な言葉を投げかけられることもあった。
#22	センター試験受験特別措置の申請 個別大学での受験の措置（別室受験）を申請しました。
#23	センター試験の受験に対しての特別措置（特別な机等の設置）当該大学の担当者に適切に対応していただいております。
#24	センター試験での別室受験手続きにとまどったが、特に問題はなかった。
#25	センター試験は他の生徒は別の教室で受験しました。時間延長、保護者の付き添いなどさまざまな支援を得て受験することができました。本人は大学進学をめざしていましたが、長時間車椅子で学習することが困難で、思うように学力を伸ばしていくことができませんでした。英語や数学など時間をかけて努力しなければならない科目では十分なサポートが果たせず好ましい成果が得られませんでした。専属的に指導するような教員が必要であったと感じています。受験時の特別措置の申請方法がわかりにくく、大学によって様式が異なり（決まった様式がなくこちらで作成したが、「大学側に必要な項目が書かれていない」と書き直しが必要となった大学もあった）。また、添付証明（医師の診断書の必要、不要など）も異なり、手間が掛った。
#26	困ったことはないが、事前に受験会場の設備、状況等を調査し、受験する際の障害となる点はないか十分準備をした。
#27	よく相談ののってくれて特に困ったことはなし。
#28	就職を当初は考えていましたが、合格せず、最終的に公立の障害者就業能力開発校で学び、就職内定いたしました。
#29	進学希望者は今までいません。就職先開拓が難しいので困っています。
#30	障害のある生徒が過去に大学・短大に行った例はない。
#31	各大学・短大で対応がまちまちで、個々に問い合わせをしていたが、全国障害学生支援センター発行の「大学案内2008障害者版」を購入し、対応可能か、それについて文書があるのか等の情報によってスムーズに問い合わせができた。しかしこの冊子を掲載していない大学などを障害のある生徒が希望したときは問い合わせをしている。
◆特別支援学校等	
#32	・大学、短大ごとに対応が異なっているので、ある程度大学側の横のつながりで認識・理解を深めていただければ、受け入れ経験のない大学・短大に1から説明・啓発をしなくてもいけるので助かります。・点字受験不可の大学があること。
#33	・A0入試の方法、推薦入試の方法が分からない。 ・大学内でのサポート体制が具体的にほとんど分らない。 ・大学卒業後の進路保障がない。 ・合格するための各教科の学力レベルが分からない。障害をもつ子ども達は高校生であっても、下学年対応の授業をすることが多い。中学レベルまで下がる場合もある。その子達には、大学に入学するということは無理なのか？ 本人、保護者等への説明に困る。
#34	・入試でリスニングなどをかしている場合の特別措置など、受験要領などに明記していない大学もあった。 ・大学内での情報保障がどれくらい進んでいるのかというのがわからない大学もあり、大学によっては過去に障害を持った学生を受け入れたことがなく、最初から受け付けないこともあった。
#35	オープンキャンパスの説明では、生徒だけで行ってもなかなか理解できなかったもので、引率して行った。どの大学でも障害を持つ生徒に対しての事前説明会等の配慮も考えてほしい。
#36	受験希望校に対して生徒の障害状況説明、受験時及び入学後の留意点、要望について事前に連絡、支援の方法についての協議を個々の生徒ごとに実施している。
#37	数年前は、主治医の診断書を付けて願書を出すこともあったが、近頃は、診断書をほとんど付けない。受験前に、ある程度、説明する場合もあるが、合格してから、支援の依頼というか、説明に行くこともある。大丈夫な生徒には、行わない。
#38	作文指導（文章の組み立てがあいまい。助詞の使い方が正しくない。語彙の不足。
#39	A0・推薦入試等の試験に対する指導。
#40	特にありません。願書提出前に本人・保護者・担任と事前相談を行ってもらっています。
#41	近年は大学側に理解をいただいております、受験前に相談をした場合には、配慮をいただいております。
#42	・本校は身体、知的 重度重複のある学生が多いため、大学進学を希望するものはほとんどいない。しかし過去には大学へ進学した生徒もいるので、もしそういう生徒が入学してくると現在の教師では受験指導をすることが難しい。
#43	受験したい生徒はいるが、授業時間の確保が生徒の体力などの関係で難しく、あきらめている。
#44	7年間大学進路希望者がなかったので継続についての課題はありません。
#45	大学進学者は居りません。
#46	本校では高校卒の学位が所得できない為、進学はできません。

表 I - 14. 受験について知りたいこと

	高等学校	特別支援学校等	計	
a. 受験時の特別措置の内容	79	22	101	50.2%
b. 入学後の支援メニュー（ノートテイク、点訳等）	69	21	90	44.8%
c. 大学の支援体制	74	19	93	46.3%
d. キャンパス内の設備	50	16	66	32.8%
e. 大学の相談窓口	46	9	55	27.4%
f. 障害のある学生の就職支援	65	19	84	41.8%
g. 周囲の学生への理解・啓発	29	10	39	19.4%
i. 上記以外のご意見・ご要望				
◆高等学校				
#1	受験校決定の際、参考にする為の情報提供をお願いします。			
#2	障害者を受け入れる体制（設備、受験の特別措置等）が整っているのかどうか、大学側から情報を発信してほしい。			
#3	進学希望者がいなかったのによく分からないので、そういった生徒が出た場合の相談先が知りたいです。			
#4	知的障害のある生徒を普通科自立支援コース生徒として各学年3名受け入れ在籍している。これまで大学・短大進学の実績はないが、数名の生徒・保護者が希望している。能力的には英検2級を合格したり、数学や古典の成績が遜色無い生徒も居ます。			
#5	AO入試等が行われている中で、障がいのある生徒のための帰国生入試、特別推薦入試制度があっても良い様に思っています。			
#6	発達障害の計診断をもつ生徒は、面接等でポイントは低いと考えられる。そうした特性を理解した特色ある入試制度の検討。			
#7	知的障がいや、重度の身体障がいのある生徒の中には、大学・短大への進学を希望している者もおります。バリアフリーもさることながら、学習面での支援や、学内での介助についても是非ご一考いただきますようお願いいたします。			
#8	受験、及び、大学内における配慮・支援については現在は程度の差があるものの当然のこととなっていると考える。ただし、障がいを持つ学生にとって（特に自宅外通学の場合）生活に対する不安は大きい。学校側（高校・大学を含む）が全て出来ることではないとわかっているが、少しずつでも始めなければ障がい学生の進学意欲は高まらないと思う。			
#9	・上記のような受け入れ体制の情報を高等学校へ流していただくと、進学指導に役に立ちます。			
#10	・大学・短大の設備や支援体制の内容・大学の相談窓口など大学パンフレットに是非記載していただきたい。 ・また支援体制のより詳細な情報を高校の進路部宛に案内していただければ助かります。			
#11	・支援部局や、相談窓口のある大学は多いと思いますが、実際にはどの程度機能しているのか、支援実績が分かれば良いと思います。			
#12	・一人住まいする場合の住宅情報など ・保護者が気軽に学校生活の様子などきける担当者・担当部署など			
#13	キャンパス内の、視覚支援になるような掲示板、案内表示、図示。高校との情報交換を可能な限りできるような体制。個人情報との関連から難しいことが予想されますが。			
#14	・詳しい情報提供をお願いします。（受け入れ体制や整備などについて）			
#15	備考の欄（調査書）をよく見ていただき、事前に本人と話し合って大学側ができることを提示してやっていただきたい			
#16	発達障害の診断がない生徒でも進学し、人間関係がうまくいなくなる生徒がいると思います。カウンセリングや、そういう生徒を見つける体制はあるのかどうか知りたいです。			
#17	ADHDなどの場合、外見だけでは判断がつかないので、教員・学生の理解を高めてほしい。理数の能力などは高いので、その力を生かせる道を示してほしい。			
#18	大学の授業に、特別支援に関わる科目は充実しているのでしょうか。特に教職養成につながる講座については、実状はどうなのでしょう。大学のサークルは障がい者支援、障がい者である学生のネットワークのようなものはありますか。			
#19	高校、とりわけ本県の定時制、通信制高校には約100名の障害者が在籍しています。毎年その4分の1、約25名が卒業していきますが、出口の問題が一番の問題といえます。大学での出口の問題をどうなされているのか、知りたいです。本県の定時制高校では、7年前からこの問題に意欲的に取り組み始め、企業訪問、労政行政との連携などをくり返してきました。今年は県下の教師たちが積極的に企業訪問、当事者を理解する作業を始めたと思っています。学校時代に彼らに何をすべきなのか、出来るのか、など次年度から本腰を入れて県下29校の定時制高校の中心となる進路指導研究会、定通部会が各校になげかけていくと思います。			
#20	・やはり各大学・短大には障害生徒が入学する場合、設備面、支援面を学校案内パンフ等に表示してもらいたい。生徒はその冊子を見て大学・短大選びをするためほとんどの大学・短大のパンフにはその表示がない。・周りの学生達へのボランティア精神の啓発を全国どこの大学・短大にも求めたい。ボランティアサークル等のある所はまだ良いが、ない所も多い。心ない学生からの傷つく発言等によって障害生徒が困ることはよくあるため、やはり周りの学生へのボランティア教育は必ずしてもらいたい。			

◆特別支援学校等	
#21	・問7-3で書いたような内容について知りたい。 ・また、大学内の障がいをもつ生徒の人数（障がい種別も含めて）を知りたい。
#22	受験に際しての時間や照明等の配慮・補助具等の使用
#23	アメリカでは大学に障害者枠を取っていると聞いたことがあるが、日本でもそういうことをする大学があってもいいと思う。当然、そのための設備など体制を整える必要があり、難しいと思うが。
#24	知的に障害を持つ生徒の受け入れを希望する。
#25	オープンキャンパス、聴講生等を通して、知的障害者の人にも短大、大学等で高等教育に触れる機会をどんどん増やして頂きたいです。
#26	移動支援や、食事・トイレなどの生活介護が受けられるか。
#27	特別支援学校では、当然の日常生活支援を、大学にどこまで求めてよいのか。また、現在の各校の支援状況が”〇〇支援”という一文でなくもう少し具体的にわかるとうれしいです。今回のこのアンケートで日本学生支援機構のHPをみせていただき、発行冊子2冊もみせていただきました。相談者が大学職員となっていました。送り出す側として、”合格すれば何とかなる!?”ではなく、安心して、学生生活を過ごせる大学探し”をしています。個々の大学に相談をしているのですが、事前にとの程度、大学に求めて良いのかがわかると相談しやすいと思っていました。今回2つの冊子を見せていただけて良かったです。送り出す側からの相談もうけていただけるとよりうれしいのですが。
#28	就労後のキャリアアップ、スキルアップ支援 ・聴覚障害者の場合、社内研修等での情報保障が充分保障されているとは言えず、同期入社のカリヤ格差が年を追う毎に広がる傾向にあり、何らかの支援策がのぞまれる。

表I-15. 学生支援機構、高大連携などについてのご意見、ご提案

◆高等学校	
#1	個別の教育制度計画を大学側へ引き継ぐタイミングと大学の窓口の明確化。
#2	上記生徒・保護者の願いを叶える努力は高校も大学もしなければならないと思います。オープンキャンパス等に参加し、生徒の状況を把握いただいた後に判断いただき、可能であれば受け入れるというルートをつくってほしい。
#3	受験の事であるからしっかりとした根拠はないが、受け入れ体制がないので不合格にされたのではと考えられる点がある。国立大受験でセンターではA判定、個別試験に対する力も十分にあったのに不合格となった。受験を受け付けるか否かの問合せに対して無理なら無理と言って欲しい。受け入れ体制がどの様な障害に対してあるかないかを偽りのない情報を一覧表などでわかりやすい形で公表して欲しい。
#4	大学側は、「障害のある生徒も受け入れますよ。」との姿勢は持っているようだが、基本として、自力で移動することができ、通常の授業で不自由を感じない限られた生徒だけの受け入れのような印象を受けた。
#5	現在、下肢上肢障害の生徒の対応について話し合っている大学は過度に受入後の責任問題について敏感になっており、障害生徒受け入れに関して大学相互のネットワークづくりや、情報提供の場合もっと必要ではないかと思えます。
#6	(問7-4の)a~gまでの各大学の一覧があれば、非常にありがたいです。
#7	視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などによるもの以外の学習障害つまりLDの生徒に対する支援体制を整備していく必要がある。大学によっては筆記試験のないAO入試等において多くの合格者・入学者を出したものの、そのうち少なくない学生がLDであると言われる。合格させる以上、サポート体制も考慮して欲しい。
#8	潜在的な(発達障害をもっているが)生徒が本校にはたくさん(多分10%~15%)います。心理検査も受けずにいる、いわばグレーゾーンの子たちです。そういう子が最も疎外されやすいです。
#9	LDの生徒さんは、言外のニュアンスを推測できないことが多いとか、授業の最初に今日行うことをかんたんに話したりすると良いとか、特定の分野だけどうしても弱い部分があります。そういう目には見えない生徒さんのケースも具体的に、心理士の方にアドバイスをいただくなり、大学教員の理解を深めていただくなりお願いします。
#10	発達障害の場合は診断もなく手帳ももっていないことが多くある。またボーダーラインの生徒も明らかにサポートが必要で、サポートがあればうまくやっていると生徒も多い。このような発達障害やボーダーのケースも視野に入れた対応とシステムをお願いしたい。
#11	自分たち(障害のある生徒)から「手伝って欲しい」等の声かけをすることが、恥ずかしいことではないことを教えてあげてほしい。学習障害のある生徒が、自分で社会の中において、自分で稼いだお金で、自分で生活をする意識が持てるようにしてあげたいです。
#12	高校のようなホームルームのない大学において、障がいを持つ学生を支える「なかま」づくりをどうしていくべきかについて、事例研究をする必要があるのではないだろうか。
#13	高校では本人をまん中に保護者、教員、ドクターの連ケイがよくできていた。大学生になってもそういうネットワークが大切にされることを望みます。

#14	小・中学校で周囲の無理解からイジメに合ったり無視されたりというケースが多いため、行政や公的機関による啓発が必要だと思う。
#15	高等専門学校では、就職・退学両方の進路を選ぶ学生がいるが、特に就労支援について、受け入れ企業の開拓を含む支援方法の具体案を提供してほしい。
#16	このアンケート用紙からもわかるように、「知的障がい」のある生徒の大学・短大進学は、最初から想定されていないのが現状です。しかし、本人・保護者の強い要望があるのは事実です。「何を学ぶのか」を生徒側に求めるのではなく、「何を提供できるのか」という視点で、高大連携も含めてご一考下さい。
◆特別支援学校等	
#17	大学、短大ごとの支援体制、支援メニュー等についてインターネット上で情報が得られる様、ホームページ上に示していただきたい。
#18	進学後の大学内での支援はもちろんですが、通学にかかわる面、公共交通機関等への働きかけも協力して対応していただいたり、アドバイスをいただけるとうれしく思います。
#19	模擬授業等で支援の具体的な方法を確認したい。
#20	知的障害を持つ生徒の学習の場がひろがるように制度を作ってほしい。
#21	入学試験に合格するための学力をつけるために学校外での取り組みがあれば紹介してもらいたい(聴覚障害の生徒が参加できる塾など)。
#22	卒業時の進路相談をしていただきたい。大学院等への進路相談、就職支援をお願いしたい。
#23	視覚障がいの学生を受け入れてもらうにあたって、大学側の懸案事項は環境設置にかかる費用、予算面でのことが多い。公的補助金や公的支援の内容について高校側に質問を寄せられるが、公的補助については説明できないのでネットワーク拠点校などがその媒体としてもらえる大変助かる。具体的な設置機器等についても予算面のことがあるので送り出す方としてはどこまで申し入れをしていいか判断に苦しむことが多い。
#24	「学ぶ環境」において障害者権利条約にある「合理的な配慮」が、当事者の経済的負担を発生させる場合がある。本来、これらは公的な助成によってなされるべきであり、その点での改善を求めたい。
#25	少子化が進む中で大学も積極的に障害者を受け入れていただきたい。入学できる(入試を合格して)学力に足りないが、大学生生活をする事で伸びる生徒はいると思うから。

表Ⅱ-1 アンケート送付数と回答いただいた方の数

	送付数	回答数
文学部	4	3
社会学部	4	2
法学部	3	1
経済学部	1	1
商学部	1	1
人間福祉	1	1
理工学部	3	2
総合政策学部	5	5
文学研究科	1	0
経済学研究科	2	1
人間福祉研究科	1	0
計	26	17
回答率		65%

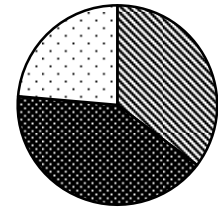
表Ⅱ-2. 回答いただいた方の入学年度

2004	1
2005	6
2006	4
2007	0
2008	6

表Ⅱ-3. 回答いただいた方の障害の種類(大別)

視聴覚	6
運動機能	7
その他	4

障害の種類



■ 視聴覚
■ 運動機能
□ その他

表Ⅱ-4. 回答いただいた方の発症時期

生まれつき	4
0歳	4
1、15歳(重複)	1
2歳	1
5歳	3
小学校	1
8歳(先天性)	1
16歳	1
19歳	1

表Ⅱ-5. 回答者の障害者手帳と級数

	はい	いいえ
	—	3
1級	4	—
2級	4	—
3級	3	—
4級	2	—
6級	1	—
合計	14	3

表Ⅱ-6. 学生支援機構の存在について

良く知っている	5
聞いたことはある	6
良く知らない	6

表Ⅱ-7. 学生支援機構が修学支援に取り組んでいることについて

良く知っている	3
聞いたことはある	3
良く知らない	11

表Ⅱ-8. 関学と同志社が拠点校であることについて

良く知っている	3
聞いたことはある	2
良く知らない	12

表Ⅱ-9 a. 高校で支援を受けていましたか?

はい	4
いいえ	13

表Ⅱ-9 b. 高校等での具体的支援内容(自由回答)

校内移動の介助
試験時間の延長・用紙拡大など
担任の先生や保健室の先生、体育の先生
トイレ介助。女性2人と男性1人の3人の先生方がペアになって、1日3回トイレ介助のシフトを作ってくださいました。約20人くらいの先生方でローテーションしていただいていた。

表Ⅱ-10. 受験を決めた時の不安について(自由回答)

◆通学について
実家がA市なので、A市にあるB学部が受からなかった場合、遠くのCキャンパスまで通学が心配だった。
家から大学までの距離が長いので、負担がかかるのではないかと心配だった。
・通学に対しての手段(自動車通学の許可)
・通院に際して、授業を休む時の配慮(通院の場合は欠席扱いは厳しいかな?)
その頃はまだふらつきがあったので、電車やバスも使ってちゃんと大学まで通えるか不安でした。
高校とは違い移動距離が長いので車いすでの生活に不安を感じたが、電動車いすにしたので今は感じない。
◆授業について
聴覚障害があるので、授業内容を理解できるのか、授業についていけるのか不安でした。
体育が必修科目かどうか
実験科目、各講義のノートテイク。各教室への移動。
授業を楽しく受けられるかと不安を感じた。
教室の広さなど高校の時と違うため、授業についていけるか、また単位とれるか不安だった。

◆学生生活について

体力が継続するかどうか不安だった。

トイレ介助について、うまく説明できているのか少し心配でした。しかし、大学側が何度も話し合いの機会をくださり、それほど不安ではありませんでした。

特に不安は無かった(違う環境に馴染めるかどうかの不安はあった)。

◆その他

(入学当時は)難聴はそれほどひどくなかったため、それに関する悩みはなかった。

説明会の時にも熱心に話を聞いてくれたので特にない。

特にありませんでした

特にありませんでした

表Ⅱ-11. 受験の際の参考資料

大学広報誌	9
HP	8
学部パンフ	8
先生から	6
受験雑誌	4
友人知人	3
新聞雑誌	2
その他	3

表Ⅱ-12 a. HPは役に立ったか?

解決した	2
少し解決した	2
あまり役に立たない	0
まったく役に立たない	1
わからない	2

表Ⅱ-12 b. HPを見なかった理由は?

存在を知らなかった	2
見なくてもよいと思った	2
その他	3

表Ⅱ-13. オープンキャンパスに参加しましたか?

参加した	9
しなかった	8

表Ⅱ-14. オープンキャンパスで不安は解決しましたか?

解決された	2
少しは解決した	5
あまり役に立たなかった	2

表Ⅱ-15. オープンキャンパスに参加しなかった理由は何ですか?

知らなかった	0
日程があわない	2
必要を感じなかった	3
その他	2
未回答	1

表Ⅱ-16 大学への問い合わせ、訪問など(複数回答)

問い合わせた	7
訪問した	8
どちらもしなかった	7

表Ⅱ-17. 問い合わせや訪問で不安は解決しましたか?

解決した	6
少しは解決した	2
あまり解決しなかった	1
その他	1

表Ⅱ-18. 受験校の決定や受験に関連しての提案・困ったこと(自由回答)

パンフレットやHP等に障害学生の受験・入学が可能なのか記載して欲しい。
予め身体障害者用の入試日程を設けておいて、当日小部屋で身体障害者用に入試をすべきである。
大学における障がい者への援助のアピールが足りないと思うので、アピールをするべきだと思う。

表Ⅱ-19. 受験のタイプ

一般入試	6
センター併用	1
センター利用	2
A O	3
高等部推薦	1
推薦	8

表Ⅱ-20. 試験の特別措置等について、問い合わせましたか?

問い合わせた	11
しなかった	6

表Ⅱ-21. 問い合わせた結果はどう思いましたか?

十分な措置だと思った	7
許容範囲だと思った	4

表Ⅱ-22 別室受験をしましたか?

別室受験	1
特別措置	3
何も要望しなかった	2

表Ⅱ-23 別室受験・特別措置で要望通りの受験ができましたか?

要望通り受験できた	3
未回答	1

表Ⅱ-24a 受験当日困ったことはありましたか? 表Ⅱ-24b. 受験中、どんなことに困りましたか?

なかった	8
困ったことがあった	2

小さなことですが、答案を回収する際に、左から右へ送るのが難しいことがあった。
特別措置で入口のすぐそばで受験させてもらいましたが休み時間はドアが全開で寒く、トイレは人が多すぎて通りずらかった。

表Ⅱ-25a 筆記試験以外の方は、どのような形で受験されましたか？

個別面接	8
複数で面接	1
センター利用試験	1
それ以外	1

表Ⅱ-25b 筆記試験以外の受験で、どんなことに困りましたか？

口話でコミュニケーションをとっていることを面接官に理解して頂けたが、面接官の口が分かりにくかった。万が一のために筆談をして欲しかった。
面接の待機中に試験後の支援などの説明があった。前もって自分が聴覚障害であることを伝えていたので、一番前の席に座ることが出来たが、説明内容が聞き取れなかったため、面談後どうすればよいのか分からなかった。

表Ⅱ-26 受験の改善についての意見（自由回答）

私が受験した際に感じたことは、受験者がどのようなサポートを受けたいのかを明確に提示することが最も重要であるということだ。
中度難聴ということで、リスニング(センター試験)免除が決定するのが、かなり直前だったので、対策が難しかったです。願書の提出など、人より早くしないといけなかったりで、面倒なことが多かったです。もう少しスムーズにできたら助かります。
聴覚障害については、受験中の指示も直接伝えるか、紙で書いたものを事前に渡した方が良いと思います。
とても良くしてもらったので感謝しています。

表Ⅱ-27 合格後不安に感じたことがありましたか？

特になかった	7
あった	10 (表Ⅱ-28)

表Ⅱ-28 入学時の不安について（自由回答）

◆通学について
通学、学校内での移動について心配だった。
通学方法(自動車通学)の許可。
大学まで通学できるか？ 人間関係。
2回ほどしか大学に行ったことがなく、通学や授業時間のことなどが不安でした。
◆勉学について
単位は取れるのか。
講義、キャンパスライフ。
授業についていけるか心配だった。特に語学。
◆キャンパスライフ・その他
体力面。
友達ができるか？
自分の病気のことを友人に打ち明けられるかどうか。

表Ⅱ-29. 合格後、大学に期待・要望することはありましたか？

特になかった	13
あった	4

表Ⅱ-29b. 要望の内容について（自由回答）

車通学の許可、校舎近くに駐車すること。
サポート
F号館のトイレと救護室を使いたい。ヘルパーを使いたい。
通学に自動車を希望した

表Ⅱ-30. 入学式・オリエンテーションで困ったことなどありましたか？

特になかった	16
あった	1 皆と学校中を歩き回るのは、キツかった。

表Ⅱ-31 入学時の高校と大学の連携についての提案（自由回答）

障害学生のOBOGとの相談、自立支援課の関係者との相談制度。
身体障害者に対する対応が存在することを、高校生である時点できちんと全員に（健常者も含めて）知らせておくような制度。
大学と高校の職員は、全員が障害者についての理解と知識が必要だと思います。一部の人だけが知っているという状況は、決してよくないと思います。大学側は、高校時代の生活をしっかりと把握してあげることが必要で、そのためには、高校の先生や親と大学側の話し合いが重要ではないでしょうか。
高校の担任の先生らが大学側とよく連絡を取ってくれていたため、とてもスムーズにスタートできました。入学後はすぐに自立支援課が色々なサポートをしてくれたので、安心できました

情報（支援方法・学校生活の様子など）の共有 ・その情報を基にして、大学生活における支援を障がい学生の考えも取り入れながら決める。

高校の先生方と大学の職員の方とがしっかり話し合いをしてくださったので、今、私は困ることなく大学生活を送れていると思います。当事者（私）がきちんと伝えることも必要だと思いますが、第3者的に高校の先生方が伝えられる話は私にとっても安心感がありますし、大学側にとっても客観的な意見は安心できるのではないかと思います。

自分と同じ障害をもった学生が、どのようにして大学生活を送っているのか、特に今まで普通の一般が通う学校へ行っていた人の場合、支援についての知識がないと思うし、支援があることがどれほど大切であるか経験したほうがよいと思います。そのためには大学側から高校へ、支援の在り方をアピールすべきだと思う。

表Ⅱ-32 現在、大学から支援を受けていますか？表Ⅱ-32b 支援の内容について（自由回答）

支援を受けている	10	ノートテイク
4年になったので止めた	1	ノートテイク、パソコンテイク
受けていない	6	ノート・パソコンテイク
		特定の授業で近くに小型スピーカを置いて教授の声を聞いている。
		アテンダントによる介助
		ヘルパー派遣
		教室移動介助
		荷物が重いため、ロッカーを借りている。
		各教授に連絡してもらっています。
		定期試験

表Ⅱ-33 支援を受けなかった理由は何ですか？

とくに必要としなかった	2	
しらなかった	1	
自分に必要な支援がない	1	
自分の希望と合致しない	0	
その他	2	

表Ⅱ-34 支援を受けてとくに感じたことはありますか？

とくにない	2
ある（表Ⅱ-35参照）	9

表Ⅱ-35 支援への感想/意見/コメント（自由回答）

この支援を受けられなかったら、私はこの大学で学ぶことが出来なかったと感じています。

ノートテイクの制度は良い方向にできあがってきているので、これからのノートテイク制度に楽しみにしている。

大学にノートテイク制度が整っていることを受験前は知らなかったのもっと高校に対してサポート制度についてアピールして欲しい。

(ノートテイクで)授業中の先生の話の内容が理解できるようになった。

聴覚障害の場合、パソコンテイクを経験してもらうのが良いのではないかと。各学校の聴覚障害をもつ生徒と担任の先生を対象に講習会(オープンキャンパス)を開いて体験してもらいたいと思う。

聞きもれなども少なく、ストレスもなくなった。

授業中、目立つのが嫌だった。でも、今はあまり気にしていない。

就学支援よりもむしろキャンパスライフの支援のほうに問題があるのではないかと。例：視覚障害のためのノートテイク→需要者が多い年はノートテイクの人材不足におちいる危険性が高い。

今までほぼ聞き取れていた私にとって、ノートテイク上での情報量は満足のいくものではない。今、小型スピーカーを使用させていただき、充実して授業が受けられている。とても感謝している（注：在学中に難聴が進行した方からの回答）。

重い荷物を持たなくてすむので、負担がかからなくなった。

私の場合は必要ないですが、車イスの人用の駐車場には屋根をつけた方がいいと思います。あと学校内の細かな段差などたくさんあると思います。バリアフリーだと健常者は思うかもしれませんが、かなり改善点はあると思います。

私が大学生活を送っていて一番重要だと思うことは、周囲の理解である。周囲(学生、友人、先生方、など)の理解があれば、どんな困難でも乗り越えることができると思います。

優しく手厚い介助をしてくれる。

とても良かった。

丁寧な対応をしていただき、助かりました。

細かい所にも配慮してもらい、助かります。今の大学生活に満足しています。

関西学院大学の障害を持つ人に対する支援は、かなり充実していると思いました。これからもよろしくお願いします。